

2次募集

2017年度国際文化学部「海外フィールドスクール・環境コース」

海外フィールドスクール・プログラム（Field School Program：略称 FS）とは、国際文化学部の2年次に実施される長期・夏期スタディ・アブロード・プログラム（SA）とスタディ・ジャパン・プログラム（SJ）で培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十全に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究手法、表現方法を修得するものです。2017年度から開始する国際文化学部の新しいプログラムです。

具体的には地球規模問題（グローバル・イシュー）の分析力、課題発見／課題解決能力、異文化の中で表現する技能を養うことに主眼を置いています。日本と異なる環境で思考力や精神力を養い、多文化間での調査・実習や創作活動への取り組みを通して、サステイナブルな社会を構築できる自律的・利他的な人材育成を目指しています。

初年度の2017年度は東南アジアのタイをフィールドに、「芸術コース」と「環境コース」を開講します。FSはSAやSJとは異なり必修ではありませんので、各コースの参加資格を満たしていれば学年を問わず参加は自由です。しかし、日本国内やSA派遣先とは異なり、生活環境が厳しい訪問先も含まれますので、参加する学生は真摯な態度でのぞみ、事故やトラブルに巻き込まれないよう、常に危機感を持って行動して下さい。また、FS参加の前後・途中の個人旅行は認めません。

1次募集の応募者への選考の結果、環境コースの定員にまだ余裕があるため、以下の要領で2次募集を行います。

◆募集人員：6～10名程度

※1次募集を含めて合計8名に満たない場合は内容が変更されるか、あるいは実施されないこともあり得る。

◆申込方法：指定の応募用紙に必要事項を記入して国際文化学部窓口へ提出

◆応募申込期間：2017年5月17日（木）～5月24日（水）

※学部窓口の開室時間のみ（9：00～11：30、12：30～17：00、土曜日は9：00～12：00、日曜日は閉室）

◆応募書類提出先：ポアソナード・タワー1階 国際文化学部窓口

◆選考方法：提出された書類をもとにした面接による選考

2017年5月27日（土）午前か午後 面接

2017年5月31日（水）選考結果通知（学部掲示板）

「環境コース」の概要は以下の通りです。海外フィールドスクール説明会の資料や応募用紙は国際文化学部のホームページから入手可能ですので、そちらも是非ご覧下さい。皆さんからの応募をお待ちしています。

環境コース

1. 実施概要

熱帯雨林は二酸化炭素を吸収するなど地球温暖化を左右する大きな要因であるとともに、陸上生態系では生物多様性に大きく貢献している。例えば、ある熱帯雨林の1平方キロメートルに生息する植物種が全北アメリカに生息する植物種と同じであるといわれている。また、地球上の生物多様性減少は現在おもに亜熱帯から熱帯にかけて分布しているサンゴ礁で激しく起きており、サンゴ礁はすでに全体の27%が完全に消滅し、今のままでいけば今後30年間でさらに30%が失われる。

この背景には、経済活動による熱帯雨林での森林伐採や、農業その他による土壌流亡によるサンゴ礁の破壊がある。わが国における経済活動そのものが、遠い熱帯雨林に影響を与えている側面がある。しかしながら、このような問題は、現場とそこで起きている実際を見なければなかなか理解できるものではない。以下のような問題について、現場で学び記録しこれらを理解した上で、最終日には各自がプレゼンテーションと討議を行う。

2. 派遣地域

渡航先：タイ国南部ハジャイ（ハートヤイ）

現地受入機関：プリンスオブソンクラ大学

3. 派遣期間（予定）：2017年8月7日～8月16日

4. 日程（変更もありうる）

1日目	移動：東京→ハジャイ
2日目	午前：開講式、講義（地域の景観、生態系、生活と自然の関係） 午後：熱帯常緑林視察
3日目	終日：モノカルチャーと環境配慮型のゴム植林（森林のプランテーション化）
4日目	午前：自給経済のための研修センター（農薬・化学肥料の過剰使用） 午後：地域の生活様式、タイ料理
5日目	終日：地域文化と景観のつながり
6日目	終日：ラムサール条約登録湿地視察（森林のパーム油プランテーション化、森林火災、ゴミ問題）
7日目	終日：沿岸の生態系（浸食の問題）
8日目	午前：まとめ 午後：送別会
9日目	移動：ハジャイ→東京
10日目	帰国

5. 募集人数 (2次募集)

6～10名程度

※1次募集を含めて合計8名に満たない場合は内容が変更されるか、あるいは実施されないこともあり得る。

6. 事前学習

時期：春学期 90分×4回の事前学習（日程は派遣学生と調整）

内容：討議、調査、事前調査に基づく発表（パワーポイント形式）

7. 事後学習

時期：秋学期 90分×2回（日程は派遣学生と調整）

内容：討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

8. 参加費 (概算)

(1) 予定金額

15万円～18万円程度

※この金額に含まれるのは現地経費（講義・移動・宿泊代を含む）、国際・国内航空券代、海外旅行保険料・その他諸雑費）

※食費（宿泊費に含まれているものは除く）・現地交通費等はこの金額に含まれていない。また、上記の金額に含まれず、必要となる費用について、現地で徴収する場合がある。

(2) 支払期日

2017年6月末（派遣決定者に別途通知）

(3) 支払方法

派遣者決定後、大学より金額及び振込先を通知。指定された口座に振り込むこと。

9. 参加資格

(1) すでにSAもしくはSJに参加し、単位を修得済みであること。

(2) 指定された事前学習を決められた水準で行っていること。

(3) アレルギーなどを含めてプログラムに参加できる健康状態であること。

(4) 英語での活動に支障がないこと。

(5) 費用の支払いが所定の期日までに完了していること。

(6) 参加に関わる諸手続を所定の期日までに完了していること。

10. 申込方法

(1) 申込方法

指定の応募用紙に必要事項を記入して国際文化学部窓口へ提出

(2) 応募申込期間

2017年5月17日（木）～5月24日（水）

※学部窓口の開室時間のみ（9：00～11：30、12：30～17：00、土曜日は9：00～12：00、日曜日は閉室）

(3) 応募書類提出先

ボアソナード・タワー1階 国際文化学部窓口

1 1. 派遣者の決定

(1) 選考方法

提出された書類をもとにした面接による選考

(2) 選考日程

2017年5月27日(土) 午前か午後 面接

2017年5月31日(水) 選考結果通知(学部掲示板)

1 2. 履修登録・成績・単位付与

(1) 事前・事後学習への積極的な参加を含めて全ての要件を満たすと、専攻科目「海外フィールドスクール」(秋学期2単位)として単位が付与される。なお、秋学期の履修登録単位数(各セメスター登録上限単位24単位)には含まれない。

(2) 成績はA+～Eで評価される。

(3) 2017年度開講の「芸術コース」にも同時に応募することができるが、参加はいずれか1コースのみとなる。

(4) 年度が異なれば、単位修得した以外のコースに参加することも可能。

1 3. 注意事項

(1) 天災(台風、地震など)、治安悪化(テロなど)、プログラム運営上の困難等のやむをえない事情により派遣を急遽中止にする場合がある。その場合は、すでに支払って頂いた参加費を返却できない可能性がある。

(2) 事前準備・学習が不十分と判断される者、性行不良で改善の余地がない場合や健康上の理由等で現地での調査・制作活動に支障があると認められる者は参加を取り消すことがある。その場合は、すでに支払って頂いた参加費を返却できない可能性がある。

(3) 日本やSA派遣先とは異なり、生活環境が厳しい訪問先も含まれるので、参加する学生は真摯な態度でのぞみ、事故やトラブルに巻き込まれないよう、常に危機感を持って行動すること。

(4) 海外フィールドスクール参加の前後・途中の個人旅行は認めない。

1 4. 問い合わせ先

国際文化学部窓口(ボアソナード・タワー1階)

月～金曜日 9:00～11:30、12:30～17:00

土曜日 9:00～12:00

日曜日・祝日 閉室

以上